

論文

保育者養成校における保護者支援の 学びの現状

五十嵐 淳 子

The state of learning of the guardian support in
a child-care worker training schools

IGARASHI Junko

1. はじめに

保育現場では、日常の保育のほか、保護者支援におけるソーシャルワークの必要性が求められている。今まで筆者は、保育実習や保育現場の意見を集約することを通して保育者養成におけるソーシャルワークの学びについて考察してきた⁽¹⁾。その結果、ソーシャルワークで必要とされている「受容」という点を学ぶ以前に、保育者や保護者を通した大人との人間関係のあり方、社会人としてのマナーを意識したかわりが求められることに、苦勞している姿が見受けられたという現実があった。

また、実習指導においては保護者支援の部分にも視点を置き、ソーシャルワーク関連科目を有機的に結びつける必要性が浮かびあがった。幼稚園教育要領では子育て支援の項目において、児童虐待のケースについて、児

童相談所等の関係機関との連携の必要性が言及されている⁽²⁾。しかし、保育現場からは子育て支援を行う上で、保育者の専門性として、社会資源である保健所や児童相談所等との連携を図る際に必要となる各機能と役割についての知識不足が問題点としてあげられ、保育者養成の段階で専門知識の習得の強化が求められていることがわかった。

そこで、本研究では保育者養成課程において、保護者支援の実践的な学びに着目し、授業や実習を通してどのような学習や体験に基づき、保護者支援を捉えているのかを明らかにしたいと考えた。

2. 研究方法

- (1) 調査対象 首都圏の保育専門学校（2年制課程）1校、保育系短期大学1校（2年制課程）、保育系短期大学1校（3年制課程）の学生合計130名
- (2) 調査時期 2012年11月～12月
- (3) 回答数 130名（回収率：125枚：95.2%）
- (4) 保護者支援の理解に対して、質問紙法を用いてアンケート調査を実施し、分析及び考察を行った。保育実習後の授業時に調査用紙を配布し、回答後、授業中に回収した。
- (5) 調査項目
 - ①実習中に保護者支援の学びとしてどのようなことがありましたか。
 - ②実習中に保護者とのかかわりがありましたか。
「はい」と回答した人はどのようなかかわりがありましたか。
 - ③ソーシャルワークの内容を学習した科目について答えて下さい。
 - ④今までの授業を通して保護者や家庭への支援においてどのようなことを学びましたか。
 - ⑤保護者支援においてどのようなことが大切だと思いますか。

調査によって得た回答の中で複数回答や自由記述の箇所については、整

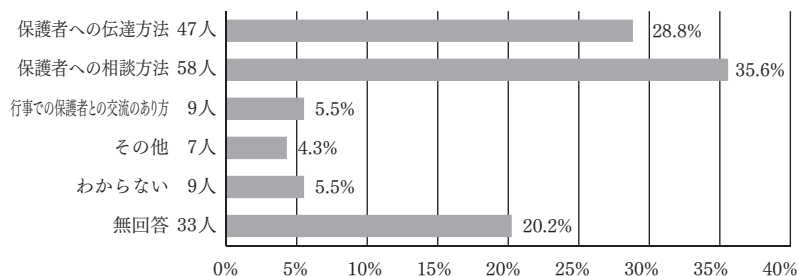
理は小項目にする方法をとった。小項目の抽出においては、学生が保護者支援について、授業や実習を通じて何を学び、今後どのように活かそうと考えているかという点に基づき、保育者養成に携わる教員3名と協議した。なお、本研究は保育者養成校に対するアンケート調査を考察したものであり、本研究に基づく趣旨説明を行った。さらに、本研究に必要な情報開示、資料提示について協力の同意を得ている。

3. 調査結果及び考察

(1) 実習における保護者支援に関する学び

「実習中に保護者支援に関する学びとしてどのようなことがあったか」という質問に対しては以下の結果となった。

【表1 実習における保護者支援の学び】



最も回答が多かったのは「保護者の相談方法」があげられた。具体的な場面においては、登園や降園時に保育者が保護者とのコミュニケーションをとる場面の実際や、子どもの成長を共に感じ、喜びあっていた場面を見ることができたという回答も見られた。保育園では、様々なタイミングで保護者からの相談に乗っており、子どもの成長と一緒に喜び保護者自身の体調をいたわるなど保育者の心遣いへの気付きも見られた。

次に多かった項目としては、「保護者への伝達方法」であり、全体の4

割を占めていた。具体的な伝達方法としては、連絡帳やクラス便り等の活用をあげており、伝達内容としては、子どもが怪我をした場合や体調を壊した場合に、子どもの状況の詳細を保護者に伝えていたことを学んだことがわかった。

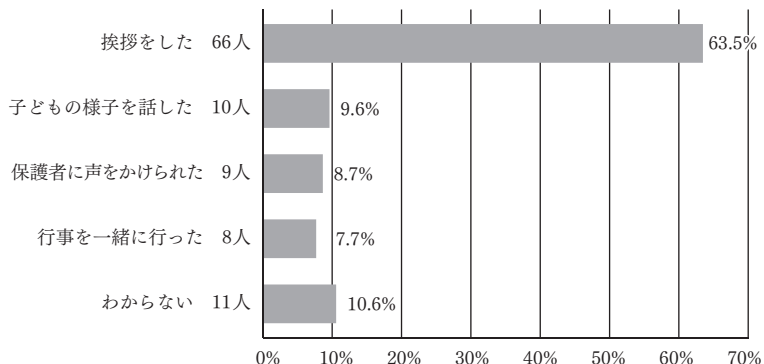
3番目に多かった「支援方法」での具体的な学びとしては、笑顔で接することが大切であるとあげた学生が最も多く、保育者にとって笑顔で明るく保護者に接することが大切であるということを実体験したことが読み取れる。

一方で、「無回答 (20.2%)」「特になし (5.5%)」を合わせると4割にのぼり、保護者支援に関する具体的なイメージを持たないまま実習を行っていることが推察できる。このことから、既習科目で学習したことを踏まえ、実習指導においては保護者支援の基本について再度確認する必要があると考えられる。

(2) 実習生と保護者とのかかわり

「実習中に保護者とのかかわりがあったか」という質問に対して125人中81人(68.1%)が「はい」と回答した。保護者とのかかわりがあったと回答した学生には、具体的にどのようなかかわりがあったのかを記述してもらった。結果は以下のとおりである。

【表2 実習生と保護者とのかかわり】



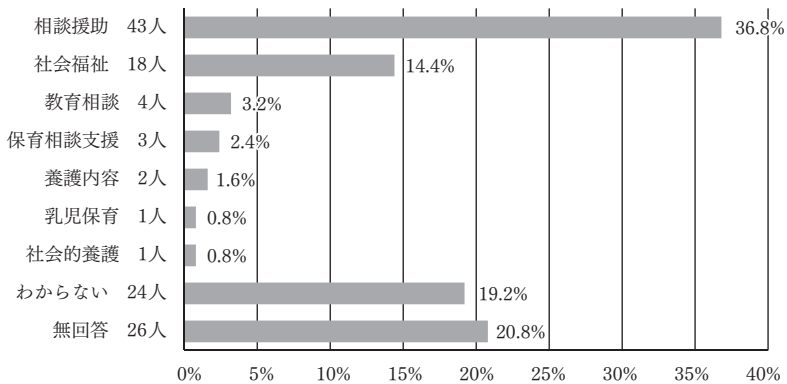
内容としては、「挨拶」が66人（63.5%）と最も多かった。子どもの様子を話したのは10人（9.6%）であるが、保護者と話をした場面としては登園や降園時であり、保護者と挨拶を交わした時に、子どもの様子を話したということであった。全体的に見てみると、「保護者から声をかけられた」「行事を一緒に行った」を合わせて8割近くの実習生が保護者支援のあり方の学びには繋がらず、保護者と深くかかわる機会はなかったことが明らかになった。

この点においては、以前から懸念していたことであるが、実習中に保護者面談が行われることがあっても、実習生がその場面に立ち会うということは大変難しい状況である。ただし、筆者の経験から、養成側から保育者と保護者とのかかわりを学ばせてほしいという旨を実習園に話すことで、理解が得られ実際の場面に実習生が立ち会う機会を得ることができたケースもあった。保育ソーシャルワークの重要性があげられている現在の社会状況からみても、実習中に保育者として求められる資質の重要な要素である保護者支援の実際を学ぶ機会として、実習生が参加できる機会を設定していくことが必要であると考えられる。

（3）ソーシャルワークの内容を学習した科目

ソーシャルワークについて学習した科目についての回答は以下のとおりである。

【表3 ソーシャルワークについて学習した科目】



ソーシャルワークの重要性について、保育所保育指針では「保育所においては、子育て等に関する相談や助言など、子育て支援のため、保育士や他の専門性を有する職員が相応にソーシャルワーク機能を果たすことも必要となります。その機能は、現状では主として保育士が担うこととなります。ただし、保育所や保育士はソーシャルワークを中止的に担う専門機関や専門職でないことに留意し、ソーシャルワークの原理（態度）、知識、技術等への理解を深め、援助を展開することが必要です。」と言及している⁽³⁾。

相談援助と社会福祉の科目と合わせると約5割の学生が相談援助の科目でソーシャルワークを学習したと回答している。「相談援助」は社会福祉サービスにおいて用いられる援助技術であるソーシャルワークの専門性について学ぶ科目である。ソーシャルワークは利用者（児）が生活を送るうえでの課題を解決したり軽減したりするための専門技術であり、保護者支援の取り組みの中でも必要とされる技術である。授業では個人、グループ、地域へのかかわり方における基本姿勢を習得する。

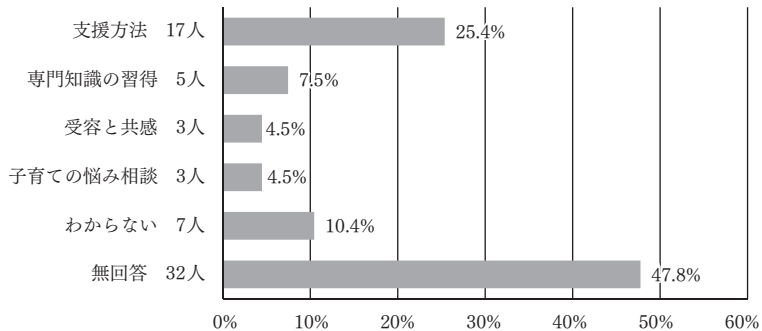
児童福祉施設等の職員からは「親と対話ができる保育士を養成してほしい」という要望を耳にする。実習では、普段の活動場面や実習場面での利

利用者（児）等とのかかわりを取り上げ、学生が利用者（児）かかわった行動に対して、ソーシャルワークの技術を確認する作業が「相談援助」の内容理解を深めていくことに繋がる。したがって、保育者養成校では、「相談援助」等のソーシャルワーク関連科目の担当教員の指導の下で、保育所実習や施設実習での学生と利用者（児）とのかかわりを的確にソーシャルワークに照らして汲み取っていく学びが必要となってくると言えるであろう。

（４）授業における保護者支援についての学び

「今までの授業の中で保護者支援においてどのような学びがあったか」という質問に関しては以下の回答となった。

【表４ 授業における保護者支援についての学び】



学生のアンケート結果からは、保育者支援の学習としては、一番多かった回答は「無回答」であり、「わからない」と合わせると、約6割が保護者支援についての学習が欠落していることがわかった。保護者支援の学習内容の理解においては、理論と実践の統合が図られ、初めて理解できる内容であることは否めない。

保育者養成課程では、2011年度から「保育相談支援」の科目が組み込まれ、保育者の役割として、保護者支援の部分の強化が図られている。保

保護者支援を学ぶためには「保育相談支援」の内容理解が不可欠である。保育相談支援の教授内容における目標は以下のことが掲げられている⁽⁴⁾。

- ① 保育相談支援の意義と原則について理解する。
- ② 保育相談支援の基本を理解する。
- ③ 保育相談支援の実際を学ぶ、内容や方法を理解する。
- ④ 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

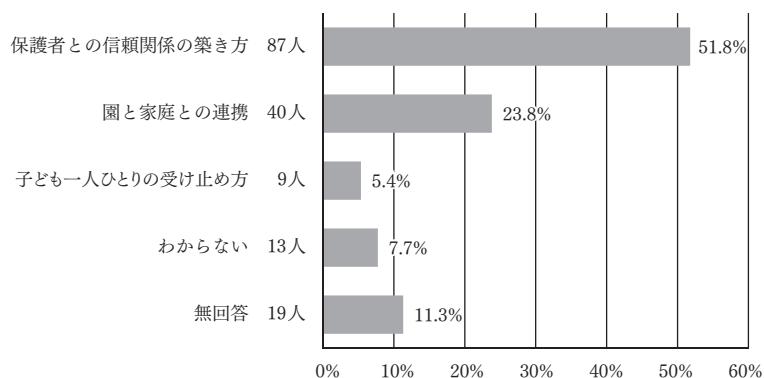
保育相談支援の内容は、様々な具体的な支援方法を取り上げている。保育相談支援の定義として高玉は「子育て家庭における保護者に対して行われる子育ての専門知識と方法を伝えるための取り組みであると同時に、保護者の子育てのしにくさを理解し、その気持ちを共感し受容する取り組みである。」と言及している⁽⁵⁾。保育者養成校においては教育の関心を高める為に、学習間の関連を考慮したカリキュラムの検討及び現場での実践知に触れる体験と理論的な学びとの関連の中で再考することの必要性を提唱している⁽⁶⁾。

したがって、座学の学習においても、指導方法を工夫し学生の理解度を深めると同時に保育相談支援の授業において、4つ目に掲げられている「保育所等児童施設における保護者支援の実際について理解する。」という目標を到達するためにも、実習の中で、保護者支援の実際を体験できる機会を作ることかが最も重要となる。

(5) 保護者支援において大切な点

「保護者支援においてどのようなことが大切であると思うか」という質問に対しては、結果は以下のとおりである。

【表5 保護者支援において大切な点】



87名（51.8%）が「保護者との信頼関係の築き方」が大切であると回答した。受容、共感、傾聴をベースに保護者とかかわっていくことが大切であるという回答が多く見られた。幼稚園教育要領では「子どもへのかかわり方や自分の子育てについて悩みや不安を感じている保護者に対しては、その思いを十分に受け止めながら、保護者自身が自分の子育てを振り返るきっかけをつくったり、子育てについて学ぶ場面をつくったりするなどして、家庭の教育力の向上につなげていくことが大切である。」と提言している⁽⁷⁾。受容と共感の重要性においては、他の保育関連の科目においても指導している内容であり、複数の教科で重複して指導することで、学生の理解度が向上していることも考えられる。その他の回答と合わせると、約8割近くが保護者支援において大切にしなければならないことを学生がイメージできていることがわかる。

次に多かったのが「園と家庭との連携」であり、40名（23.8%）の学生が回答している。保護者の置かれている家庭環境や人間関係を理解し、保護者と協力していくという記述も見られ、園と家庭において、協力しながら子どもと一緒に育てていくことの大切さを理解していることが読み取れる。さらに、注目すべき点は、「子ども一人ひとりの受け止め方」と回答した学生が約5%いたということである。「子ども一人ひとりの受け止め

方」をあげた学生に関しては、保育者がカウンセリングマインドを持ち、子どもの気持ちを受け止め、一人ひとりに寄り添った保育を行っていくことが、保護者が安心して子育てをできるように支援することに繋がるという人的環境の重要性を理解していることが推察できる。

4. おわりに

保育実習の目標においても、子どもの保育だけでなく、保護者支援についての総合的な学びがあげられている。しかし、今回の調査で、実際の保育実習では、保護者支援の実際に実習生自らがかかわるということはなく、担当保育者と保護者のかかわり方を見ることに限定されていることが明らかになった。

また、いずれの設問にも1割以上の学生が回答できずにいる結果から、保護者支援がどのようなことを指すのか具体的なイメージが描けないまま実習を迎えている学生がいることが浮き彫りとなった。したがって、今後保護者支援の重要性が一層高まることを受け、保護者支援についてより具体的なイメージが描けるような授業内容及び学習方法を工夫していく必要があるが、そこには体験に基づく理解が重要となる。

保育者と保護者とのコミュニケーションが期待される現状にあたり、養成校側から実習施設に対して、実習において保護者支援を経験する機会の提供を働きかけることの重要性を提唱している⁽⁸⁾。保育者養成課程においては、保育実習をはじめ、ソーシャルワーク関連科目を有機的に結びつけ、学生自身が実際に体験してきたことを手がかりに、実際に保育者になった際には保育現場でその視点を活かした保護者支援ができるように育成していかなければならない。

今後は、そのための具体的な学習として、保育実習では、保育者養成校教員がスーパーバイザーとなり、保護者支援の実際に学生を参加させ、実際の保護者とのかかわりを体験することを提案していきたい。さらに、実

習園との協力のもとに保育現場における問題の共有化を図り、保育者の質の向上に取り組んでいきたい。

引用文献

- (1) 矢野明宏・百瀬ユカリ・五十嵐淳子「保育者養成におけるソーシャルワークの学びの一考察～保育実習における指導を中心に～」武蔵野大学紀要 2012年、7頁
- (2) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』株式会社フレーベル、2010年、241頁
- (3) 厚生労働省『保育所保育指針解説書』株式会社フレーベル、2011年、184頁
- (4) 関東信越厚生局健康福祉部指導養成課「指定保育士養成施設のカリキュラム改正にかかわる説明会」2010年、50頁
- (5) 高玉和子・和田上貴昭(編)『保育者養成シリーズ 保育相談支援』一藝社、2012年、18頁
- (6) 奥山順子・山名裕子「求められる保育者の専門性と大学における保育者養成－保育者志望学生の意識と養成教育の役割－」秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第28号 2006年、128頁
- (7) 前掲書(2)、240頁
- (8) 石田開・田中まさ子「保育者養成課程の学外実習における保護者に関する経験の頻度－保護者とのコミュニケーションスキル育成への手がかりとして－」岐阜聖徳学園大学紀要 第44集 2011年、172頁

参考文献

- 相澤譲治編『六訂 保育者をめざす人の社会福祉』(株)みらい、2012年
- 五十嵐淳子「保育者として求められる資質とは－実習の振り返りを通して－」桜の聖母短期大学紀要 36号、2012年
- NHK 学園社会福祉士養成課程編『相談援助実習サブノート』NHK 学園、2011年
- 奥典之・森内智子「保育者養成教育における保育ソーシャルワーカー必要性とその理論化－」日本社会福祉学会第60回秋季大会 口頭発表、2012年
- 柏女靈峰監修『保護者支援スキルアップ講座』ひかりのくに株式会社、2010年
- 上村麻耶・千葉弘明・仲本美央編著『保育者養成実習事後学習』大学図書出版、2012年
- 川村隆彦『支援者が成長するための50の原則』中央法規出版、2009年
- 小林育子『演習 保育相談支援』(株)萌文出版、2010年
- (社)日本社会福祉士養成校協会編『相談援助実習指導・現場教員テキスト』中央法規出版、2009年

五十嵐 淳 子

- 杉本浩章・田中和彦・中島玲子『実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート』(株)みらい、2011年
- 鈴木敏彦・横川剛毅「保育者業務実践におけるソーシャルワーク機能に関する基礎研究－保育所保育者の保護者支援を中心に－」和泉短期大学紀要(30)、2009年
- 武田英樹「地域に求められる保育者によるソーシャルワーク」近畿大学豊岡短期大学論集(5)、2008年
- 中野菜穂子「保育所の『機能拡充』をめぐる動向と課題－保育所の地域活動を中心に－」岡山県立大学短期大学部研究紀要(4)、1997年
- 野沢正子「子育て支援概念と保育所保育の方法技術－『措置保育』から『子育て支援保育』への転換」『社会問題研究』46(1)、1996年
- 橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』(株)ミネルヴァ書房、2012年
- 松本寿昭『社会福祉援助技術』同文書院、2004年
- 山本真実「保育所機能の多様化とソーシャルワーク－特集ソーシャルワーク実践としての家庭支援－」『ソーシャルワーク研究 26(3) 通巻103号』相川書房、2000年

(本学教育学部非常勤講師)